

# 重症心身障害児者施設における口腔ケアチーム立ち上げに係る『口腔ケアコンサルテーションプログラム』の活用

びわこ学園医療福祉センター野洲  
〒520-2321 滋賀県野洲市北櫻 978-2

## 助成事業の概要

重症心身障害児者は嚥下機能の低下により呼吸器感染を発症しやすく、状態が容易に悪化するといった特徴があります。誤嚥性肺炎の予防のためには口の中を清潔に保つことが重要とされていますが、重症心身障害児者は開口が困難であったり歯磨きの拒否など、さまざまな要因で口腔内の衛生状態が保ちにくい状況です。そのため、施設全体の口腔ケアの質を向上する目的で『口腔ケアチーム』を立ち上げました。そして、『口腔ケアチーム』としての活動を効率的に進めていくために、すでに高齢者施設での口腔ケアチームの立ち上げ支援の実績がある慢性看護専門看護師の『口腔ケアコンサルテーション』プログラムを活用したいと考えました。『口腔ケアコンサルテーション』は1回2時間で6ヶ月のプログラムで構成されています。今年度はコロナの感染対策のために、外部者を施設内へ招くことができない期間があったため、連続した6ヶ月として訪問してもらうことができませんでしたが、6月～3月までの間に計6回の訪問がかない、口腔ケアチームメンバーを対象にコンサルテーションプログラムを受けることができました。

## 事業の成果

『口腔ケアコンサルテーション』プログラムは6月から受けることにしましたが、5月に講師が導入として Zoom によるオリエンテーションの時間を1時間作ってくれたので、初回から戸惑い

なくスムーズな運びとなりました。昨年の計画段階では5名の職員で6回のコンサルテーションプログラムを受ける予定にしておりましたが、一度に全員が参加することができなかったので、一部の職員は隔月での参加としたので述べ18名の参加になりました。直接プログラムに参加できなかった職員に対しては、内容の伝達をすることで習得レベルの統一に努めました。

『口腔ケアコンサルテーション』プログラムでは毎回講師に当施設を訪問してもらい、直接指導を受けることができました。1回2時間のコンサルテーションの内容は、「前回の振り返り（口腔ケア実施者を中心に取り組みの報告）」「口腔ケアに関する学習会（約20分）」「利用者の口腔ケアの実施（各1名）」「口腔ケア実施後の振り返りと、日常の口腔ケアに活用する方法の検討」という流れで実施しました。講師を招いての口腔ケアの実施指導では、誤嚥性肺炎のハイリスク者や口腔ケアの困難者を選定し、集中的かつ細かな声かけまで丁寧わかりやすい指導が受けられました。そんななか、指導内容を日常的なケアにどう活用していくか、ということが課題となりました。今後は利用者の口腔ケアで現場が困っていることを抽出して、問題に対して口腔ケアチーム会で対応を検討して現場に返していく流れを作っていけたらと考えています。

重症心身障害児者にとっての口腔ケアは、歯磨きにより口腔内の清潔を保つだけでなく、誤嚥性肺炎の予防も視野にいたした生命予後や QOL に直結する重要なケアだと言えます。『口腔ケアコンサルテーション』プログラムを受けたものの、

取り組みを進めていくための知識や技術、発信力など力不足から不安を拭うことはできませんが、「まだ始めたばかり！！」今後も口腔ケアの向上にむけて研鑽を積みたいと考えています。

りませんが、まずは継続することで小さな成果を積み上げていければと考えています。

## 成果の広報・公表

12 月に開催した法人主催の実践研究発表会で活動報告の機会があり、重症心身障害認定看護師の活動報告の一つとして、口腔ケアチーム立ち上げの経緯から『口腔ケアコンサルテーション』プログラムの活用や活動内容を報告しました。実践研究報告会はコロナ禍ということもありオンラインでの開催となりましたが、243 名の参加があり、施設内外の方に広く活動内容をお伝えすることができました。

また、3 月の当施設内での実践報告会でも 12 月同様、重症心身障害認定看護師の活動報告の中で、自施設の職員 44 名を対象に簡単ではありますが口腔ケアチーム会の取り組みを報告することができました。

## 今後の展開

1 回 2 時間 6 ヶ月の『口腔ケアコンサルテーション』を受けて、口腔ケアに関する知識や技術の習得に努めてまいりましたが、やはりそれだけでは不十分だというのが実感です。利用者の口腔ケアに関する問題提起と解決策を提案するためには、さらなる研鑽の必要性を実感しています。そのため、『口腔ケアコンサルテーション』プログラムの終了後も、慢性看護専門看護師のフォローを受けながらチーム活動を進めていきたいと考えています。また、幸い法人内の他施設に歯科がありますので、歯科医師や歯科衛生士との連携も視野に入れていきます。

今年度の取り組みとして示せる大きな成果はあ